

OPTIONS for the Control of Influenza XI参加報告

(2022年9月26日～29日開催, 於:ベルファスト)

高下恵美

国立感染症研究所インフルエンザ・呼吸器系ウイルス研究センター第一室主任研究官

OPTIONS for the Control of Influenza XI (<https://www.optionsxi2022.org.uk>)は英国北アイルランドの首都ベルファストで、2022年9月26日～29日に開催された。OPTIONS for the Control of InfluenzaはInternational Society for Influenza and other Respiratory Virus Diseases (isirv)が主催するインフルエンザに特化した世界的な学術会議で、初回は1985年に米国コロラド州キーストーンで開催され、1992年の第2回以降は3～4年ごとに世界各国で開催されてきた。前回の第10回会議は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行前の2019年8月にシンガポールで5日間にわたって開催された。第11回会議は当初2022年9月にイタリアのミラノで開催予定であったが、COVID-19の流行により2021年の時点で中止が決まった。しかしその後、英国でのワクチン接種が進み、英国でならば開催が可能であるとの判断から、同じくisirv主催で2022年9月29日～10月2日にベルファストでの開催が確定していた12th International RSV Sym-

posiumと日程を連続させることで短い準備期間にもかかわらず開催が実現した。

本会議では初めて対面とオンデマンドのハイブリッド形式が採用され、インフルエンザに加えてCOVID-19にも焦点を当てた4日間の開催となった。Keynoteの他、4つのPlenary Sessionがあり、Basic science (Virology / Pathogenesis), Translational science (Clinical), Implementation (Public health)に分けられた一般演題には130以上の口演と500以上のポスター発表があった。参加登録者は50か国以上の約980名で、日本からの参加者も多く見受けられた。COVID-19パンデミック下での開催であるため、本会議事務局からは事前にCOVID-19ガイダンスが提示され、マスク着用は義務ではないが密な場面では着用を推奨するとされていた。また、受付で参加者に配布されたコンgresバッグにはマスクが入っており、会場内では一定数の参加者がマスクを着用していた。個人的にはアジアだけでなく欧米からの参加者にも意外にマスク着用者が多

い印象をもった。本年6月にポルトガルのブラガで開催されたNSV 2022 (Negative-strand RNA virus meeting)では参加者にCOVID-19のクラスターが発生したと聞いており、当時の学会事務局がマスクの着用は義務ではなく個人の自由であるとしてだけ表記していたという違いはあるが、現時点で本会議の参加者に関してクラスター発生の報告は聞いていない。

Opening Keynoteでは英国Scientific Advisory Group for Emergencies (SAGE)のメンバーであるDr. Jonathan Van-Tam (University of Nottingham, UK)の講演「Science and Leadership during the SARS-CoV-2 Pandemic and Lessons for Influenza and other Respiratory Viruses」があった。政策とその実践のための科学という彼の個人的な経験に基づき、われわれの世代が直面した公衆衛生上最大かつ最悪の世界的イベントCOVID-19パンデミックに対して、科学、リーダーシップ、政治がどのように交錯していったのかという興味深いテーマであった。非医薬品介入(Non-pharma-